

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2021年度(令和3年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2021

(文化庁 令和3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。シンポジウム(全国コミュニティシネマ会議)、上映者のためのワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進めた。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2021

実施日：2022年2月3日[木] 会場：ユーロライブ(東京) *オンラインによるライブ配信も実施

参加者：会場参加...114名[出演者・スタッフ含む] | オンライン参加...266名 合計380名

当初は、2021年11月に岩手県盛岡市で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により実施困難となったため、2月にユーロライブ(東京・渋谷)で、会場・オンラインのハイブリッドで開催した。「“持続可能”な映画館・コミュニティシネマ」をテーマとして、プレゼンテーション、ディスカッションを行った。プレゼンテーションでは、コロナ禍の中で新たに映画館・映画上映の場所を作った人、配給・上映イベントを始めた人、映画を製作した映画館など18団体を紹介し、ディスカッションでは、地域の上映者同士の連携や、配信事業の可能性、労働環境の問題などをトピックスとして、上映・映画館の“持続可能性”について、当事者の視点から議論した。ディスカッション後の映画上映では、東京都北区の「シネマ・チュプキ・タバタ」の協力を得て、ドキュメンタリー映画『こころの通訳者たち～What a wonderful world』のユニバーサル上映を実施した。

◆プレゼンテーション：コロナ禍の中で、始めました。

出演者：和田浩章(小野沢シネマ)、三宅優子、柴田修兵(ジグシアター)、原田健秀(ジョージア映画祭)、喜田惇郎(宮崎キネマ館)、原悟(上田映劇)、菊池康弘(シネマネコ)、三好剛平(Asian Film Joint)、降矢聡(グッチーズ・フィルム・スクール)、田中範子(神戸映画資料館)、梶原俊幸(横浜シネマ・ジャック&ベティ)、平塚千穂子(シネマ・チュプキ・タバタ)、田辺和寛(ほとり座)、北原豪(K2)、西原孝至(SAVE the CINEMA)、渡辺真起子(ミニシアター・パーク)

◆ディスカッション：“持続可能”な映画館/コミュニティシネマ

出演者：志尾睦子(シネマテークたかさき、高崎映画祭)、山崎紀子(シネ・ヌーヴォ)、小坂誠(第七芸術劇場/シアターセブン)、林未来(元町映画館)、大高健志(Reel/K2)、浅倉奏(ル・シネマ)、畑あゆみ(山形国際ドキュメンタリー映画祭)、濱治佳(山形国際ドキュメンタリー映画祭)

◆『こころの通訳者たち What a Wonderful World』プレミア上映 [ユニバーサル上映]

出演者：山田礼於(監督)、越美絵(プロデューサー)、白井崇陽(出演)、彩木香里(出演)、近藤尚子(出演)、石井健介(出演)、廣川麻子(出演)、平塚千穂子(製作/司会)

(2) ディスカッション&ワークショップ

－映画館・上映者のためのコンプライアンス講座

実施日：2021年11月4日 / 会場：東京(オンライン) 参加者：16名

ミニシアターにおけるハラスメント～何が問題なのか。法律の専門家とともに、ミニシアターの労働環境やハラスメントの問題を具体的な事例を参照しながら深く掘り下げ、ミニシアターや上映団体が整えるべき労働関連文書やガイドラインについて専門家による講義を聞いた。

講師：馬奈木巖太郎(弁護士)

モデレーター：山崎紀子（シネ・ヌーヴォ）、志尾睦子（シネマテークたかさき）、梶原俊幸（横浜シネマ・ジャック&ベティ）

ーデジタルシネマワークショップ

このワークショップは、全国コミュニティシネマ会議に合わせて実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、全国コミュニティシネマ会議を計画通りに実施することが不可能となったため、実施を見合わせることにした。

ーアートマネージメントワークショップ イン 東北

実施日：ワークショップ...2021年12月18日、19日、2022年1月15日 上映会...2022年2月11日

会場：ワークショップ...二戸シビックセンター/上映会...一戸町萬代館 育成対象者：6名 上映会鑑賞者：28名

2021年度は、岩手県北部・二戸市、一戸町で初めての開催となった。講師には、昨年コロナの影響で迎えることができなかった、岡山県真庭市で映画教育プログラムに取り組む映画監督山崎樹一郎氏を迎えることができた。このワークショップが契機となって生まれた県内各地の上映者の事例報告も行うことができ、ネットワークを深めることができた。また、上映会は、100年以上の歴史のある、国の有形登録文化財でもある映画館「萬代館」（現在は映画館としては営業していない）で実施、当日の運営も円滑に実践することができた。

■2022年12月18日、19日 ワークショップ① 映画上映を知る

出演者：岩崎ゆう子（コミュニティシネマセンター）/ 高橋大（「映画の力」プロジェクト）/ 富田圭（カシオペア映画祭）/ 櫛桁一則（みやこ映画生活協同組合）/ 茂木素子（つびたあれいわいずみ）/ 小田中卓也（シワキネマ）/ 八谷三和（シネマ・デ・アエルプロジェクト）/ 山崎樹一郎（シネマニワ）

■2022年1月15日 ワークショップ② デザインを知る

出演者：齋藤純子（カコトジ）

■2022年2月11日 ワークショップ③みんなで上映会を運営してみよう！ @一戸町萬代館

上映作品『星屑の町』（2020年/日本/120分） 上映後トーク及び講師：杉山泰一（監督）

(3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

ー「こども（若年層）と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、こども（中高校生を含む）を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行った。

①「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け（若年層）上映会をより魅力的なものにするための方法を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングや実施会場相互の見学等を定期的に行い、ゆるやかなネットワークをつくっている。2021年度は「夏休みの映画館」のために『フロリダ・プロジェクト』、『はちどり』、『37セカンズ』、3作品の鑑賞ノート（ワークシート）を作成、全国各地の子ども向け上映会の開催時に配布することができた。

② 子ども映画館（上映会）の実施

子ども（中高生を含む）を対象とした上映会は、全国5カ所で計7回実施した。各地の上映者とともに企画・運営を行い、上映会には合計874名に参加してもらうことができた。

*自主事業2「子どもと映画プログラムの実施」を参照

ーミニシアター・ネットワーク事業の開拓

実施期間：2021年秋～冬(予定) 実施地域：神奈川と関西の映画館ほか

複数のミニシアターが連携して実施する企画として、「夏休みの映画館」、「ミニシアター地域交流上映会」を実施した。

■夏休みの映画館 [子ども向け連携上映企画] 文化庁AFF事業

実施日：2021年8月21日～27日

会場：シネマ・ジャック&パティ（横浜）、シネマテークたかさき（高崎）、松本CINEMAセレクト、大阪シネ・ヌーヴォ、元町映画館（神戸）、Denkikan（熊本）、鹿児島ガーデンスシネマ *自主事業[2](1)「夏休みの映画館」を参照

■ミニシアター地域交流上映会 [横浜・関西の上映者交流企画] 文化庁AFF事業

実施日：2021年12月19日、20日、26日 会場：シネマ・ジャック&パティ（横浜）、大阪シネ・ヌーヴォ

一若手監督作品上映推進プロジェクト

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者の旅費を負担した。

実施日・会場・内容：

- ・2021年8月7日@福山駅前シネマモード『逆光』ゲスト：須藤蓮監督、渡辺あや（脚本）
- ・2021年8月22日@鹿児島ガーデンスシネマ『おばけ』ゲスト：中尾広道監督
- ・2021年8月26日～28日@鹿児島ガーデンスシネマ『君がいる、いた、そんな時』ゲスト：迫田公介監督
- ・2021年9月24日～26日@大阪シネ・ヌーヴォ「吉開菜央特集」ゲスト：吉開菜央監督
- ・2021年9月19日@元町映画館『シシシの娘』ゲスト：入江悠監督
- ・2021年11月20日@元町映画館『彼女来々』ゲスト：山西竜矢監督
- ・2021年11月26日@元町映画館『男の優しさは全部下心なんですって』ゲスト：のむらなお監督
- ・2021年11月13日@シネ・ヌーヴォ「大江崇允監督特集」ゲスト：大江崇允監督
- ・2022年1月16日@元町映画館『JOINT』ゲスト：小島央大監督、山本一賢(主演)、YK.jr(スタイリスト)、寺本慎太郎(撮影監督)
- ・2022年1月18日@元町映画館「大江崇允監督特集」ゲスト：大江崇允監督
- ・2022年1月28日@元町映画館『息をするように』ゲスト：枝優花監督、Karin.（主題歌）

(4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。

-Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するポータルサイト「Fシネマップ(fcinemap.com)」や「アートハウスプレス (arthousepress.jp)」の運営を行った。

-フィルム上映会の実践

全国コミュニティシネマ会議に合わせて実施を予定していた「フィルム上映会」は開催を見合わせることにした。

[2] 「映画上映活動年鑑2021」の作成

(文化庁 令和3年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

「映画上映活動年鑑2021」内容：

I 映画館での上映

(1)概況 (2)公開本数・公開作品 (3)諸外国との比較 (4)都道府県別概況 (5) 全国映画館リスト2021

II 公共上映

(1)公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など
(2)上映事業を行っている公共ホールなど

III 特別調査 | 映画館以外で行われる上映活動 一覧

IV 特集：コロナ禍の中のミニシアター・上映者

・全国コミュニティシネマ会議2021採録)

プレゼンテーション：コロナ禍の中で始めました。

ディスカッション：持続可能なコミュニティシネマ（全国コミュニティシネマ会議2021採録）

・コロナ禍の映画祭：全国映画祭リスト2021

・コロナ禍のミニシアター・上映者の2年間

・資料：年表：新型コロナウイルスの感染拡大とミニシアター・上映者（2020-2021）

V 資料：都道府県別上映施設一覧

VI 上映に関わる用語

2. 自主事業

[1] 「SAVE the CINEMA!」事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指し、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行った。また、前年度に続き、関連の講座（映画館・上映者のためのコンプライアンス講座）を実施した。

*受託事業[1](2)ディスカッション&ワークショップを参照

(2) アートハウスプレスの運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウスプレス）芸術電影館通信（arthousepress.jp）」の更新を行った。

2021年度のArticles & Reports：

2022年2月18日「私と岩波ホール」平野共余子

2022年1月7日「ジョージア映画祭2022によせて」はらだたけひで

2021年10月21日「元町映画館の10年から」地域におけるミニシアターのあり方」林未来

2021年7月12日「フランス映画鑑賞教育と真庭市の取り組み」山崎樹一郎

2021年4月26日「連続講座「現代アートハウス入門 ネオクラシックめぐる七夜」」渡辺祐一

[2] こどもと映画 プログラム

(1) 「夏休みの映画館」の開催

（文化庁「Arts for the Future!」対象事業）

地域に暮らす子どもたち（小学生～高校生）に、地域の映画館を訪れてもらうための新しい取り組みとして、夏休み期間中の1週間、毎日1本（プログラム）子どもたちに見せたい、多様で魅力的な映画を選定、上映した。ライブ感あふれるサイレント映画の活弁・演奏付上映や、魅力的なゲストによるトークショー、体験型のワークショップなども合わせて実施した。また、上映する3作品の鑑賞ノートを作成した。

*受託事業[1](3)ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進参照

実施期間：2021年8月21日[土]～27日[金]

参加団体：横浜シネマ・ジャック&ベティ、シネマテークたかさき、シネ・ヌーヴォ（大阪）、元町映画館（神戸）、DENKIKAN（熊本）、ガーデンズシネマ（鹿児島）、松本CINEMAセレクト（松本市波田文化センター）

入場者数合計：873人

内容：

①無声映画+活動弁士付上映 *各地で個別のプログラムを実施

②『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』+ワークショップ

③『ネバーエンディングストーリー』

④『フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法』+ゆうたろう（俳優）×枝優花（映画監督）トーク 聞き手：西原孝至

⑤『はちどり』+キムボラ監督×ジュビ（アート・ナイン）トーク 聞き手：土田環

⑥『わたしは、ダニエル・ブレイク』+斎藤工（俳優）×坂本安美（アンステイチュ・フランセ日本）トーク

⑦『37セカンズ』+井浦新（俳優）×渡辺真起子（俳優）トーク

(2) こども映画館の開催

子ども（中高生を含む）を対象とした上映会は、全国5カ所で計7回実施した。各地の上映者とともに企画・運営を行い、上映会には合計で874名に参加してもらうことができた。

実施内容：

—こども映画館-スクリーンでみる日本アニメーション！（国立映画アーカイブ共同事業）

・2021年5月5日@川崎市アートセンター『パンダコパンダ』、『パンダコパンダ雨ふりサーカス』 観客数：38人（1回上映）

・2021年7月22日@高知県立県民文化ホール『パンダコパンダ』観客数：639人（3回上映）

・2021年8月13日@川崎市アートセンター『白蛇伝』観客数：40人（2回上映）

—こどもと映画プログラム（こども映画館）

・2021年11月28日、12月5日@横浜シネマ・ジャック&ベティ「中高生の映画館×シネ・リセ」 観客数：76人（各1回上映）

-11/28『ロシウォールの恋人たち』ブランディヌ・ボーヴィー氏による解説動画上映

-12/5『思春期 彼女たちの選択』上映後レクチャー：須藤健太郎

・2022年1月8日@広島市映像文化ライブラリー「土曜日の映画館」『わたしは、ダニエル・ブレイク』観客数：62人（2回上映）

・2022年3月2日@岩泉町民会館『アリ地獄天国』観客数：19人（1回上映）

(3) ウェブサイト「こども映画館」(kodomoeigakan.jp) の運営・更新**[3] 映画の巡回/特集上映会の開催****(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.3 の巡回**

アンステイチュ・フランセが、フランスの映画メディア（新聞、雑誌、テレビ局、ウェブ媒体等）、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画 を選りすぐり、紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在をめぐって～」。コミュニティシネマセンターでは、vol.3（セクション担当・「カイエ・デュ・シネマ」マルコ・ウザル氏）で上映された作品の中から10作品程度を選び、全国に巡回した。

マルコス・ウザル ベスト・セレクション2019-2020

『ルーベ、嘆きの光』（アルノー・デプレシャン、2019年）『パーニング・ゴースト』（監督：ステファン・パチュ、2019年）

『涙の塩』（監督：フィリップ・ガレル、2020年）『思春期 彼女たちの選択』（監督：セバスチャン・リフシツ、2020年）

ソフィー・ルトウルヌール特集

『セックス・アンド・ザ・フェスティバル』（2013年）『奥様は妊娠中』（2020年）

エマニエル・ムレ特集

『カプリス』（2015年）『言葉と行動（ラヴ・アフエアズ）』（監督：エマニエル・ムレ、2020年）

ジャン＝フランソワ・ステヴナン特集

監督作品 『防寒帽』（1978年）『男子ダブルス』（1986年）『ミシユカ』（2002年）※

出演作品 『走り来る男』パトリシア・マズィ（1988年）

セルジュ・ダネーを巡って

『現代の映画作家シリーズ ジャック・リヴェット 夜警』クレール・ドゥニ（1990年）

『パリはわれらのもの』ジャック・リヴェット（1958年）

巡回：

・広島市映像文化ライブラリー(2021年10月24日～11月13日) 計15日・13作品上映

・横浜シネマ・ジャック&ベティ(2021年11月20～12月10日) 計21日・17作品上映

・名古屋シネマテーク(2021年12月18日～24日) 計7日・8作品上映

観客数合計：2073人

(2) ジョージア映画祭2022

日本とジョージアの国交成立30周年の記念の年である2022年、ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集めた「ジョージア映画祭2022」が2月に岩波ホールで開幕した。コミュニティシネマセンターでは、この映画祭を全国に巡回する。3月末には高崎映画祭で上映を行った。

巡回作品は2022年度事業計画参照。

・高崎映画祭（2022年3月25日、26日、30日、31日）10プログラム上映 観客数：483人

(2) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など

フレデリック・ワイズマン監督作品（神戸映画資料館）、英国ドキュメンタリー傑作選ほか、当センターが保有する作品の貸出を行った。

[4] その他の事業

(1) コミュニティシネマセンターウェブサイトやSNS（Twitter/Facebook）の運営（jc3.jp）

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

(2) ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

(3) コロナ関連の助成事業に関する情報共有など

文化庁や経済産業省等、コロナ対策支援事業に関する情報を情報共有した。